

福島ロータリークラブ会報



持続可能なインパクトを生み出そう

■ <http://www.f-rotary.com/>



[ホームページ]



[Facebook]

2026年

9月17日(木)

vol. 10

■例会場／福島市野田町1丁目10-41 エルティ ■例会日／木曜日12:30
■事務所／福島市万世町2-5 福島銀行本店内9F ■TEL.024-536-1010 FAX.024-536-1011
■mai / f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

本日のプログラム

■会員スピーチ
■セミナー参加報告

学校法人東稜学園 理事長 小原 敏 会員
社会奉仕小委員会 鈴木朋恵 委員長
ロータリー財団委員会 渡辺健寿 委員長

会長あいさつ



2026-27 年度会長 横山 淳

本日は特別月間テーマに因み教育者の小原会員にお話をお願いしております。

さて、先ほど敬老のお祝いをさせていただきました。皆さんおめでとうございす、大変お元気で同慶の至ります。私も70歳になり、改めて「老い」について考えてみました。小林武彦さんという生物学者が書いた『なぜヒトだけが老いるのか』という本を読んで新たな気付きがあったので今日はその話をさせていただきます。

まず一つは生物の中で「老い」があるのはヒトだけであるということです。野生の動物は基本的に老化しない、つまり老いずに死ぬということです。サケも川を上り産卵・放精するとすぐ死んでしまうように動物では死ぬ直前まで生殖行為を含めて通常通りの活動ができる、ということです。ペットは別ですが、野生の動物に年寄りライオンやおじいさん象のような「老いた動物」は存在しないということです。

それでは高齢者、ここではシニアと呼ばせていただきますが、シニアの存在が集団にもたらす有利性についてお話させていただきます。

1. 知識と経験の伝承と問題解決

シニアはその長い人生を通じて蓄積した知識、経験、技能を若い世代に伝えることにより、社会全体の生存戦略が向上し、集団の総合的な適応能力が高まります。

また、シニアの知恵や洞察は、多種の社会的問題や紛争の解決、ひいては社会的結束の強化につながります。

2. 後代への投資

シニアは、直接的な繁殖活動から離れることで、孫や曾孫などの若い世代への投資により集団の生存と繁栄に貢献します。これには、知識の伝達だけでなく、物質的な資源の提供や、安全の確保などが含まれます。

3. 利己から利他への移行・遺伝的な利害を越えた貢献

シニアは、自己の遺伝子を直接引き継ぐ子孫だけでなく、非血縁者を含む社会全体に対し貢献します。集団の存続と繁栄のために、個人が自分自身よりも大きなコミュニティの利益を優先させる利他へ力を注ぎます。

ざっとこんなところがシニアのいる集団の有利性かと思ひます。

さて、以上のことをロータリークラブにあてはめて考えてみましょう。当クラブには30歳代・40歳代の会員が20名近くいる一方、今日お祝いさせていただいた方々をはじめとしてシニアも沢山いらっしゃいます。この多様性に富んだ当クラブは、多くの動物の中で人類が繁栄し今日に至ったように、繁栄する強いロータリークラブになると確信し、本日のご挨拶とさせていただきます。

例会次第

■ロータリー・ソング

「それでこそロータリー」

ソングリーダー 岡田新也 会員



岡田新也 会員

■お客様並びに来訪ロータリアン紹介

相良元章 SAA



八巻恵一 会員

■敬老の日にあたりお祝い

■RLI修了証・卒業証伝達

RLIパートⅢ修了証

八巻恵一 会員・管野裕一 会員

RLI卒業証

八巻恵一 会員



管野裕一 会員

■各委員会報告

例会小委員会 ニコニコBOX担当

村上守人 委員

社会奉仕小委員会

スポGOMI大会について

鈴木朋恵 委員長



村上守人 委員



鈴木朋恵 委員長

幹事報告

■本日、18時より「おりおり」にて古希の会を開催いたします。参加者11名となります。

■次週9/24(木)は祝日週のため休会となりますので、よろしくお願いいたします。

■9/24(木)12:00~NTT福島支店1階コネクト大町にて「親睦小委員会」を開催いたします。委員の皆さま、よろしくお願いいたします。

■9/24(木)18:00~ラボッカにて「米山記念奨学会委員会」を開催いたします。委員の皆さま、よろしくお願いいたします。

■10/14(水)開催の金田昇ガバナー歓迎晩餐会につきまして、現在参加者が6名となっております。締切が今月末となりますので、ぜひ皆様のご参加をお願いいたします。

■9月ロータリーレートは1ドル160円となりますのでお知らせいたします。



藤井 守 幹事



学校法人東稜学園 理事長
小原 敏 会員

中国内モンゴル自治区沙漠緑化事業に 家族6人で参加して

今回は以前福島ロータリー会報の私の一言で触れました、今世界中で頻発している大規模な災害に大きく起因している地球環境問題に28年前の1998年にささや

ながら家族で参加した活動をご紹介します。その前に今申し上げた会報vol.04の私の一言に誤りがありました。出だしの国連グテーレス事務総長の地球沸騰宣言は昨年としてしまいましたが、すでに3年前の間違いでした。お詫び申し上げます。

ご覧の通り、私の家族6人での中国内モンゴル自治区、奇しくも今年度の米山記念奨学生ホウさんの母国での砂漠緑化植林活動です。この活動のなかには、今回の月間目標基本的教育と識字率向上に多少でも関わるものがありました。

1998年(平成10年)4月15日(水曜日)

福 島 民 報

中国の砂漠で植樹

郡山・小原「緑の協力隊」に参加
さん一家



クブチ砂漠で植樹する小原さん一家

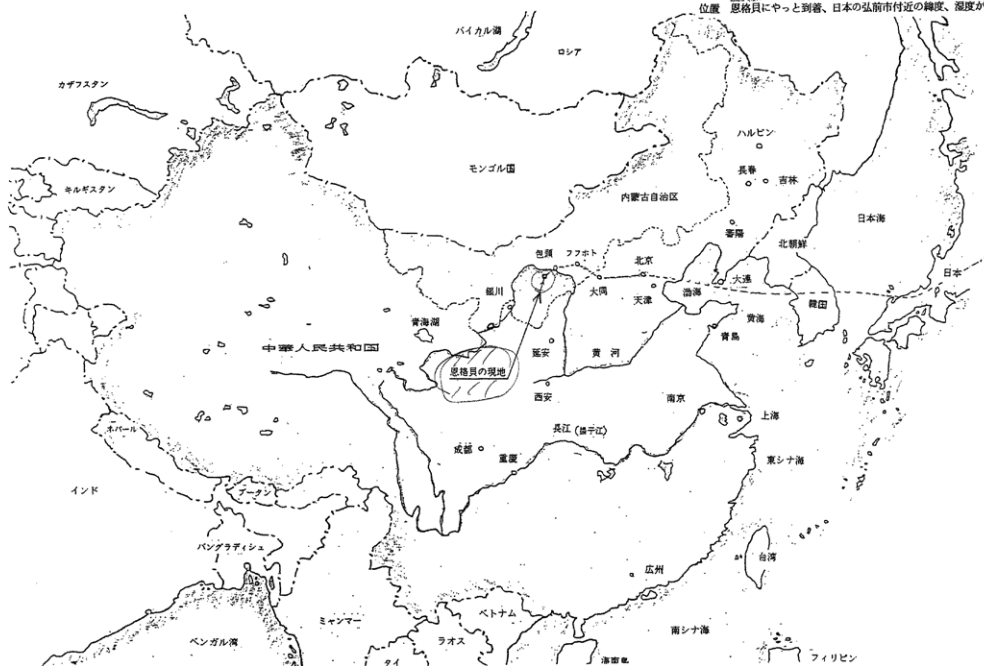
郡山市の尚志高英語教諭・小原敏さん(44)と妻の幸さん(44)は、長男(11)・二男(9)・三男(7)・長女(6)・次女(5)の6人家族で、今年度、中国内モンゴル自治区のクブチ砂漠でポプラの植樹作業を行った。同協会は平成三年から定期的に全国の有志を募って「緑の協力隊」を編成し、クブチ砂漠で植樹を展開している。既に二百万本余りのポプラの木を植えている。今回は三月二十八日から四月四日までの派遣期間に、全国から三十三人の応募があり、県内からは小原さんら六人が参加した。

参加したのは、小原さんと妻の幸さん、長男、二男、三男、長女、次女の6人。一行は現地でも植樹作業に取り組んだ。苗木は五年ほどで立派な成木に生長するという。二年前から同協会に入会している幸さんは、「植樹作業を通じて地球環境保護の大切さを実感することができ、子供たちにとっても有意義な体験となった。五、六年後には自分たちが植えたポプラを見に行きたい」と話している。

沙漠緑化の最前線！ 21世紀は沙漠緑化の時代！

植林地までのルート

中国人民共和国 内蒙古自治区 庫布其沙漠の恩格貝



鳥取県の実保上空を通過した後に韓国を横断、北京空港に夕刻 着陸、翌日の午後北京駅発の急行夜行寝台付列車で832kmを約16時間、約190万人の製造所の街、中国の内モンゴルの包頭市に到着、専用バスに乗り換え、黄河の中流の渡し場「召君渡」鉄舟を並べた浮橋150m、水深が約15mの黄河を渡る。水面の標高が1,000m、水深から3,400km、黄河の全長は5,464km、包頭市から約78kmを2時間～3時間で標高が1,130mの庫布其沙漠の東側の位置、恩格貝にやっと到着、日本の弘前市付近の緯度、湿度が10%以下です。

植林活動の一連の流れを写真を通して簡単に説明します。

植林を終えた帰りの道中に、農村部の子供達が通う小学校へ参加者で持ち寄った文具を贈呈するものでした。30年近く前の中国の奥地です。当時現地の農村の大人の非識字率はおよそ40%の状況でした。学校と申しても古い小さな平屋のレンガ造りの校舎です。私達30数名の植林隊が訪ねると、その小さな校門前から生徒100名くらいが持ち寄った小さな楽器を演奏してにこやかに熱烈歓迎と連呼して迎入れてくれました。さすがに私の4人の子供達は同じ年代の子供達の派手な中国式の歓迎ぶりに驚きを隠さないでいました。校舎内を案内され一部の授業風景を覗いてみると、ほとんどの生徒の手元にある鉛筆は使い古され数センチも無いものが、目立っていました。我々の贈った文具類が少しでも識字率向上に繋がってくれる事を祈りながら、また再会、再会の連呼で見送られその場を後にしました。



植林地の歓迎式で
歓迎の盃を受ける



植林風景

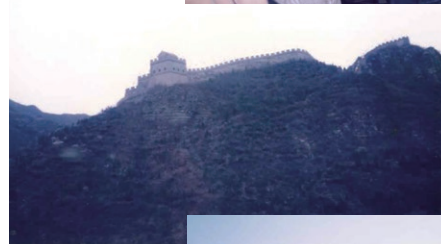


初日
天安門広場前で

北京から16時間
夜行列車で



文具を贈呈した
学校で熱烈歓迎



途中万里の長城
を望む



小学校の教室で
使い古された文具に…

黄河の上流の橋を
徒歩で渡る



途中半砂漠の道の
砂の橋がぐずれ
待つこと数時間



協会創立者
遠山氏が植林後
ご来福



ここで、改めて第63次中国砂漠緑化日本協力緑に参加した内容を本校の国際平和論論文に寄稿した文面で紹介いたします。平成24年度版で、すでに14年たっていますので、経過年数等は現在に合わせてお伝えします。

私が日中友好活動に参加して今年で50年近くとなります。中でも1998年3月末に、中国の内モンゴル自治区恩格貝（オンカクバイ）クブチ砂漠緑化事業に「第63次緑の協力隊」として家族6人で参加した植林活動が、今でも生涯忘れえぬ家族の宝物となっています。

当時、子供たちは小学6年の長男を頭に次男5年、長女3年、三男はまだ幼稚園でした。一般的な観光旅行ではなく本格的な中国大陸の奥地の砂漠植林活動です。小さい子連での植林活動は危険を伴い周囲からの反対の声もありました。それでも子供たちの未来のためにと春休みを利用して強行したのです。

日本砂漠緑化実践協会で現在も実施されている中国の砂漠を元あった緑の大地に甦らすという、地球の砂漠緑化とCO₂削減の壮大なプロジェクト事業です。当時の中国国家主席江沢民氏をも共感させました。またNHKの人気番組「プロジェクトX」にも取り上げられ高い評価を得ているものです。

すでに植林活動から28年が経過した今、久しぶりに当時のアルバムを紐解くと、そのアルバムの間に一冊の薄い読み古された冊子が挟んでありました。この協会が定期的に発行している会報です。当時まだやんちゃな小学3年の娘が帰国後まもなく、現地で最後まで我々のバスが見えなくなるまで見送ってくれた今は亡き協会の生みの親、元鳥取大学名誉教授遠山征英氏（当時87歳）宛に一通の手紙を送っていました。出てきた会報の表紙にはその時の手紙の素朴な原文が掲載されていました。

わたしは遠山先生のまんが「ひろがれみどりの大地」をみて、すごいなあとびっくりしました。それから何日かたって、お母さんが中国にしょくりんへいくといたので、中国へいって見たら、日本みたいでした。そしてさばくで、はじめて木をうえてみました。そしたら40cmでこうっていたので、ほるのがむずかしかったです。だけどいっぱいうえられました。こんどまた行って、さばくをみどりにしたいです。だから遠山先生も長生きして中国のさばくをみどりにしてください。

へいせい10年 63じたい3年（小学校）
小原 京



こうした活動がその後の私の地球環境保全活動の大きな契機となりました。私が本校に赴任して早々17年前の平成21年、当時はまだ数少なかった大型太陽光発電システム設置のオープン式に合わせ生徒会が中心となり、本校独自にエコスクール宣言をしました。その後環境負荷を極力最小限にする様々な取り組みをまとめたものをご用意しました。後ほどご覧いただければ幸いです。

来る27日には大いに地球環境問題の啓発になるスポGOMI大会が開催されます。昨年みごと世界ギネス記録に登録されたことを誇りに大成功となることを願って、私のスピーチとします。ご清聴ありがとうございます。





社会奉仕小委員会
鈴木朋恵 委員長



ロータリー財団委員会
渡辺健寿 委員長

8月2日に開催された、「社会・国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会 合同セミナー」の社会・国際奉仕委員会のご報告をさせていただきます。

モンゴル第3450地区の元地区財団副委員長であり、現在はガバナー補佐エレクトである、ナルマンガフ・サンダグスレンさんによる、「ロータリーの奉仕で繋がる日本とモンゴルの友情」という題目で講演がありました。

ナルマンガフさんは、モンゴルの医療事情や、日本とモンゴルのロータリーの交流、そして現在進められている遠隔医療のプロジェクトについてお話しされました。

まず印象に残ったのが、モンゴルの医療事情です。

モンゴルは日本と比べても非常に国土が広く、特に地方では医療施設や専門医が十分ではない地域もあり、専門的な医療を受けるためには、長い距離を移動しなければならないことがあるそうです。

また、首都のウランバートルでは、今度は交通渋滞が非常に深刻で、市内を移動するだけでもかなりの時間がかかるというお話がありました。

つまり、地方では「距離」の問題があり、ウランバートルでは「渋滞」の問題がある。

私たちの場合は、具合が悪くなれば近くの病院へ行くということを、当たり前に考えていますが、モンゴルでは、「病院へ行く」ということ自体が、日本で私たちが考える以上に大変なことなんだと感じました。

そこで現在取り組まれているのが、遠隔診療のプロジェクトです。

農村部にある13のクリニックと県立総合病院、さらにはウランバートルの国立メンタルヘルスセンターをオンラインで結び、遠隔地に住んでいる方でも、専門医による適切なケアを迅速に受けられるようになり、長距離を移動する負担を減らすだけでなく、早い段階で必要な治療や支援につなげることができるということでした。

昨年度、第2530地区のグローバル補助金を活用した事業として、現在はモンゴルにおける遠隔診療の実現に向けて、プロジェクトが始動しております。当クラブとしても共同事業として1000ドル寄付しております。

日本とモンゴルは距離としては遠く離れていますが、ロータリーという共通のつながりによって友情が生まれ、その友情が今度は、医療という形で現地の方々を支える活動につながっているということが、とても印象的でした。

以上、簡単ではございますが、ご報告とさせていただきます。

2026年8月2日、郡山市ユラックス熱海にて開催されました合同セミナー第2部ロータリー財団委員会セミナーは、地区ロータリー財団委員会林克重(福島南RC)委員長のあいさつ、引き続き地区ロータリー財団委員会活動と資金報告から始まりました。

各小委員長より以下の説明がありました。

- (1)地区補助金申請書及び報告書のオンライン
主としてオンラインによる申請の書式の説明
- (2)寄付と認証
例年どおり地区の年度目標
年次基金 150ドル/1人
ポリオプラス 30ドル/1人
ベネファクター クラブから1名
ポール・ハリス・ソサエティ (毎年1000ドル寄付)、
ポリオプラス・ソサエティ (毎年100ドル寄付)の加入促進
- (3)ファンドレイジング
寄付を募るアイデア
定期的に食事なしの例会を行い、節約した費用を寄付
世界ポリオデーの街頭募金
家族や大切な人の名前で記念寄付、追悼寄付

補助金管理セミナーとして、各小委員長より以下の説明がありました。

- (1)MOU(覚書)が補助金申請のスタートとなる。
- (2)地区補助金の授与と受諾
手続は2年度にまたがり、たとえば2026-27年度は計画年度で27年1月までMOU 27年3月まで次年度補助金申請、2027-28年度は実行年度で27年9月ロータリー財団委員会による承認 27年9月中旬～4月30日実行期間となる。
- (3)グローバル補助金の授与と受諾
大規模な事業で最低30,000ドルの事業であること、重点分野に合致した国際奉仕であることが要件となる。

当クラブとしては、

- (1)2026年9月27日スポGOMI大会に地区補助金の承認を受けています。
- (2)クラブポリオプラス財団委員会としてスポGOMI大会に併せてポリオプラスの街頭募金を行います。
- (3)11月のロータリー財団月間に地区ロータリー財団委員長林克重委員長の例会ゲストスピーチを予定しています。

敬老の日にあたりお祝い おめでとうございます



- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ■河田 亨 会員
昭和6年4月1日 | ■阿久津 肇 会員
昭和8年7月29日 |
| ■渡邊 又夫 会員
昭和10年3月29日 | ■加藤 義朋 会員
昭和11年6月9日 |
| ■大沼 健次 会員
昭和17年3月29日 | ■児玉 健夫 会員
昭和18年2月24日 |
| ■内池 浩 会員
昭和18年11月22日 | ■幡 研一 会員
昭和19年2月17日 |
| ■安藤健次郎 会員
昭和20年3月15日 | |

RLI 修了証・卒業証 伝達



- RLIパートⅢ修了証 八巻恵一 会員・菅野裕一 会員
- RLI卒業証 八巻恵一 会員

古希の会開催



9月17日(木) 18時より、「おりおり」にて古希の会を開催いたしました。

福島ロータリークラブOB会開催



9月16日(水)、東京にて福島ロータリークラブOB会が開催されました。当日は多くの皆さまがご参集され、和やかな雰囲気の中で親睦を深められたとのこと。

私のひと言



仙建工業株式会社
取締役 執行役員 福島支店長
菅野勝正 会員

建設業について一言お話しさせていただきます。

私が入社した38年前の建設業は、現場に行けば若者がいて、「見て覚える」が当たり前の時代でした。公共事業や民間建築も多く、完成した道路や橋を見ながら仲間と語り合うのが何よりの喜びでした。今は人手不足や高齢化が進み、現場も大きく変わりましたが、街をつくり、人々の暮らしを守る誇りは変わりません。これからは経験と技術に加え、ICTやDXも活用しながら、「きつい・汚い・危険」の3Kから、『かっこいい・稼げる・感謝される』と言った、若い世代が憧れを持って飛び込んでくる業界を目指していきたいと思います。

ニコニコBOX報告 本日の投入額 45件 ■報告 村上守人 委員

【メッセージ会員】

■井田 裕子 会員

今日、県警本部見学に行きました。クラブでもできないでしょうか？

■内池 浩 会員

敬老のお祝、ありがとうございます。

■大橋 真孝 会員

防災月間でもあり、防災士の資格を取りました。地域の防災力強化には有意義な資格です。みなさまにもオススメです。ちなみに合格率90%以上なのでご安心下さい。

■岡田 新也 会員

今日、病院に行ったら数値が悪くなってました。しばらく、酒と甘い物はやめられないので、減らします。

■加藤 義朋 会員

敬老祝いありがとうございます。

■菅野 裕一 会員

小原先生のスピーチ楽しみにしております。

■小林 仁一 会員

今冬はイラン戦争の影響で灯油の積増ができていません。よって、価格、供給に不安があります。早めにLPガスやヒートポンプに交換する事をおすすめします。

■相良 元章 会員

10月1日の例会は、干支毎の席次となります。ご自身の干支にちなんだエピソードを持ち寄っていただければ幸いです。初の干支例会を盛り上げましょう！

■菅沼 裕 会員

例会委員会、今日の一言。「お金だけじゃもったいない。あなたの一言が、今日の例会を楽しくする」です。みなさん、ありがとうございます。

■幡 研一 会員

敬老お祝いありがとうございます。

■廣山 祐治 会員

小原会員のお話を楽しみにしています。

■本田 裕一 会員

スポGOMI楽しみましょう。天気が良くなりますように。

■松原 久武 会員

弊社CMに出演いただいた女優の中村ゆかりさんが、先日直腸がんで亡くなりました。享年44歳とのこと。シングルマザーの主人公が病氣と闘いながら前向きに生きていくというCMですが、このCMは、私が本社の広告課長時代に制作したCMでした。当時既にがんに罹患し、向き合いながら仕事をしていたとのことで、SNS等でも話題になっております。謹んでご冥福をお祈りいたします。

■芳見 弘一 会員

きょうはイタリア料理の日。本日の料理は何か？

■渡邊 又夫 会員

敬老祝いありがとうございます。今夜「古希の会」を開催いたします。百才以上が10万人とか。うち女性が9万人。男の子頑張らしましょう。

■横山 淳 会長

来週例会はありませんが、次はスポGOMI本番です。これまでにない600人規模となりました。事故なく運営できます様大会スタッフの皆様、宜しく願いいたします。

■他に 安藤正明/安部 守/大槻美恵子/荻野誠也/奥 一正/小原 敏/小原孝嗣/金子真也/児玉健夫/古俣 猛/佐藤永之/佐藤久典/佐藤英典/佐藤 有/佐藤良智/菅原高志/鈴木朋恵/善方邦彦/田畑建一/中尾 勉/藤井 守/増井裕康/村上守人/村山由美子/森下謙太郎/八巻恵一/山野辺宏/吉田大樹/渡辺泰子